

上手な勉強 上手な暮らし方が生んだ驚異 あの暑い高崎で難なく夏を過ごしている家

〔群馬県高崎市〕

家を建てることは誰にとっても人生の大仕事である。お金のことはいうまでもなく、いい家を求めたい、失敗しない家づくりをしたい、そういう思いは誰にでもある。だから、あちこちの住宅展示場に何回も足を運び、何冊もの住宅誌を買い込み、描いた設計図を何度も書き直したりする。しかし、それでもなかなか思うようにいかないのが家づくりである。さらに今は、高断熱住宅という多くの人にとって未体験の住宅が世に出現したので、益々勉強が必要になった。



そんな中、「上手に建てて上手に暮らしている人がいる」と聞いて群馬県高崎市の田口雅治さんのお宅を訪問した。田口さんは今から4年前、親が住んでいた家を大規模に改修して、夏冬を3回過ごしてきた。あえて夏冬を3回と書いたのには理由がある。高断熱住宅は夏冬を過ごしてみないとその住宅がほんとうに高断熱住宅かどうか、また、高断熱住宅のよさを生かしているかどうかはわからない。冬暖かく夏涼しいというキャッチフレーズが本当かどうかは住んでみないとわからないのだ。現に冬寒い高断熱住宅もあるし夏は暑くて耐えられないような高断熱住宅もできている。

田口さんの「上手に建てて上手に暮らしている」とはどんなものなのか楽しみに訪問した。

■いきなりゴーヤ

実は、田口家を訪問するのは2回目になる。リフォームの工事中に建築会社の(株)アライ(本社高崎市)が施工方法の見学研修会を開いてくれたので、私たちのグループ(新住協)で訪れたことがあり、その時田口さんとお会いしている。今回は5年ぶりに会う。



訪問したその日、リビングに通されていきなり目に入ったのが西側の窓一杯広がったゴーヤの緑(写真)。

「このゴーヤ、葉の密度が濃いですね。これなら日よけに効くでしょう」

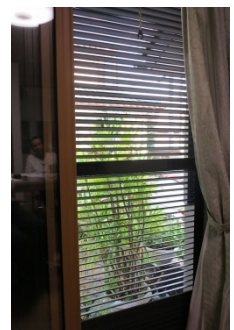
「ええ、8月の頃はもっと密集していましたよ」と奥さんがいう。

「じゃ、夏は日よけをして涼しく、ですか？ クーラーはどうしているんですか？」

「高崎は40℃近くにもなるので、さすがに冷房なしではいられません、でもあまり使いません」。私が「どんな暮らしになるんですか？」と聞くと田口さんはよどみなく次のように話してくれた。

■夏の上手な暮らし方

「夏は朝早く窓を開けて空気を入れ換え、日中は家の中に風を通して涼しくする」そういう答えだったら、読者はその通りとうなずくのではないか。正解はまったく逆で「朝は7時前に窓を閉める。そしてそのまま一日中窓は閉めておく」のだそうだ。そして、部屋が暑くなるまで冷房は入れない。部屋が暑くなったら冷房を入れる。外の温度



が室温より低くなったら冷房を止め、窓を開ける。だから、窓を開けるのは夕方以降になる。夜は家中の窓を全開して寝る。そして明け方、窓を閉めるという繰り返しが夏の日常という。「夜、窓を開けて寝たら物騒じゃないか」と思う人は写真 2 をご覧戴きたい。通風が採れて鍵がかかる雨戸がある。1階のテラス窓にはこれがついている。朝から窓を閉めるがエアコンをすぐ使うわけじゃない。一見非常識な暮らし方に見えるがちゃんとした高断熱住宅では常識になりつつある夏の暮らし方だ。

■夏の断熱は保冷

断熱は冬だけの話ではない。夏の外気は40℃、窓を開けていたらそのまま外気温と一緒にするのは当然。室温は30℃以下にしたい。だから屋根壁に断熱して家を保冷する。保冷力が高ければ高いほど室温は外気に左右されない。いくら暑い高崎だって夜間は30℃以下になる。25~26℃になる日もある。夜間窓を開けて冷気を家に入れ、朝、外気温が高くなる前に窓を閉めるのはそういう理由からだ。そして、保冷力をより高めるために断熱材を厚くする。天井は30cm、壁には高性能グラスウールが壁の内外に入れられ合計200mmという厚さだ。だから「カンカン照りの日でも外から照りつけられるような感覚は全くない」と田口さんが話す。

■大敵は日射

しっかり保冷されるということは、逆に、室内が暑くなったら暑さも逃げない理屈になる。だから、死ぬほど暑い高断熱住宅も出来てしまうのだ。暑さの大敵は日射。直射日光が室内に入ったら部屋は暑くなる。だから日射を入れない工夫をしなくてはならない。幸いなことに、夏の日中は太陽高度が高いので庇や軒が日を遮ってくれる。だが午後からの西日は庇では防げない。そこで冒頭のゴーヤが出てくる。勿論すだれやよしずでもいいのだが、「緑がきれいだから」と田口さんはゴーヤの棚でしっかり西日を遮っている。だから「西日が入って暑い」という日はないそうだ。しっかり断熱して日射遮蔽を徹底する、それが夏を涼しくする絶対条件だ。

■機能ガラスの上手な使い方

日射遮蔽だけを考えれば、一般のペアガラスと違って、日射を通しにくい性能を持った遮熱ガラスを採用するという方法もあったが、それだと冬の日射も遮ってしまうので、ここでは日射も取りながら断熱性能を上げるというガラスを採用した。冬、日射のある地域なら南面の窓には最適のガラスだ。このあたりは「社長さんにはほんとはよく教えてもらった」と田口さんが特に評価する。(株)アライにそのあたりの抜かりはない。

■明るさは暑さ

奥さんが面白いことを言ってくれた。「日中、クーラーを付けているときも、雨戸を閉めておくことがあるんですよ。少し暗くなるけどその方が涼しいんです」実は、この話しも大正解だ。ずっと以前、私はあの暑い名古屋で同じ場面に出会ったことがある。建築した工務店の社長と、真夏にその家を訪問すると、なぜか雨戸を閉めて真っ暗にしている。驚いた社長が「何してるんですか、昼間から雨戸締めて！」と笑いながらいうと「何言ってるんですか、こうしているのが一番涼しいんだよ」と逆襲された。明るさは熱だと聞いたことがある。暗くしていた方が冷房も効く。とにかく40℃にもなる真夏、暗いのはイヤとか陰気だとか言っている場合ではない。涼しい方法を見つけたらそれで暑さをしのぐのが利口なのだ。

こうしてあの暑い高崎の夏を難なく過ごしている。

■見学会で何を勉強するか

田口さんはリフォームする前、住宅の見学会に出かけたりして沢山の家を見てきた。(株)アライとも住宅見学会が会いだ。「リフォームなので急ぐこともなかったからその間3年くらいかかった」という。でも、家のつくりを見ていたわけじゃない。「住宅会社はどこでも冬暖かく夏涼しいというのが本当にそうかどうか、それを確かめるために夏冬体験をしているうちに3年経った」というのが事実だ。「アライさんには実際に住んで何年かになるお宅を夏も冬も見せてもらいました。どんなふうに暖かいのか、どんなふうに夏涼しい

のか、何軒も訪問させてもらうことができました。住んでいる人に聞くのが一番の答えですからね。実際、冬暖かいばかりでなく、夏を涼しく暮らしている人もいました。それでわかったのです。暮らし方もすごく大切だということが。」原始的だがこれ以上の勉強方法はない。住宅会社が用意した、仕組みられた宿泊体験ハウスに一日泊まるのとは訳が違う。「アライさん以外の住宅会社では、住んでいる家にまで連れて行ってはもらえなかった」と田口さんは言う

■暮らしやすい高齢者の住まい

この住宅は断熱耐震同時改修という優れたリフォームになっている。断熱性能も耐震性能も法律で新築住宅に要求されている以上の性能になっている。2011年に国交省が行った補助事業も活用した。タイミングが合ったという運の良さもあったが上手な建て方といえる。ところで、リフォームは何かと制約が伴うが奥さんがこんなことを話してくれた。「間取りの制約があったので結果的にこうなったのですが、トイレと台所、食堂、浴室が全部寝室から近くなった。そうしたらすごく便利だと気がつきました。これから歳をとったらもっと暮らしやすさを感じると思います。」しかも冬は朝起きたときから暖かいのだから、何から何まで上手くいっている。

■配慮

田口さんは近所の人との挨拶に困るときがあると苦笑する。高崎の冬は明け方-3~4℃まで下がることあって、そんな朝は「今朝はうんと寒かったですねえ」と挨拶され、夏は夏で「こう暑くちゃクーラーも効きませんねえ」と挨拶される。「そうですか、うちはそんなことはありません」とも言えず、そうですねえと言葉を合わせるそう。

「とにかく宣伝をうのみにしてはいけない」田口さんはそう言った。

上手な勉強、上手な建て方(業者選びも)、上手な暮らし方、私はこの3つの上手をあらためて反芻した。(終わり)

施工者データ	
設計施工	株アライ
所在地	群馬県高崎市飯塚町382-7
代表者	新井 政広
電話	0273-61-4349
Mail	kk-arai@jade.plala.or.jp